

NO! リニア

No. 150

2022年9月12日

JR東海労働組合

JR東海労HP
にアクセス↓



車両基地予定地に残る民家 静岡県知事が工事遅延を指摘!

静岡県川勝知事は9月7日に神奈川県相模原市のリニア建設工事現場を視察したことが8日、報道されました。川勝知事は、車両基地について「人家が残り、用地の取得が進んでいないことを確認した」として、2027年開業が困難という見解を示しました。そして、川勝知事の見解を基に、本村相模原市長は「JR東海に確認したい」と述べています。

神奈川県環境影響評価書には、車両基地の土地の造成から整備完了まで11年かかるとの記載があります。このことを見ても、土地所有者の理解を得られない限りにおいて、完成の見通しが立たないことが伺われます。

また、本紙No.136でも明らかにした通り、本部は神奈川県車両基地建設が、埋蔵文化財保護法に基づく調査計画書の未提出等も含め、4年遅れていることを指摘しました。

一方会社は、労使交渉の場で、JR東海労の2027年開業の可否についての質問に対し「開業が遅れているとは言っていない。開業は2027年に変わらない」と強情をはっています。金子社長は9月8日の記者会見で、川勝知事の見解に対し「工事を進める中では、さまざまな工程を並行して進めるなど、工期短縮も可能だ」と反論し、「2027年開業は、静岡工区が着手できておらず難しい」と見解を示しました。

このような状況を見ても明らかのように、2027年開業は無理があります。会社としては、誰が開業を遅らせたのかを喧伝する必要があると予測されます。その原因が静岡県であり、責任者である川勝知事ということになるのではないのでしょうか。

会社は、静岡県悪者論と同様に、リニア建設の反対運動をしているJR東海労が悪者であるかのように、組織破壊策動を繰り返しています。誰かを悪者にして、自らの行為や主張を正当化するという姑息な手段で、リニアを完成させようとしています。

全社員の皆さん、「会社（ユニオン指導部）が言うことは全て正しいんだ」という幻想は捨て、あらゆる情報を見聞きし、何が間違いで、何が正しいのかの価値判断を持つ必要があります。リニアによる経営破綻で取り返しがつかなくなる前に！